

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	露語第一		
英文授業科目名	Elementary Russian I		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	1学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 量子・物質工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	斉藤 毅（学内連絡教官 三浦 清美）		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
ZVT03146@nifty.ne.jp	

【主題および達成目標】
<p>21世紀の国際政治・経済は、これからどんどん多元化が進んでゆくと予想されていますが、その中でロシア（日本の隣国でもあります）は、EU諸国や中国などと並び、きわめて重要な位置を占めている国です。</p> <p>また、地理的にヨーロッパとアジアの中間に位置するロシアは、千年以上に渡り、欧米とは異なる独自の文化をつちかってきました。その言語であるロシア語も、文字はもちろんのこと、音の響きや文法の面でも、英語等とはかなり違った特徴を持っています。</p> <p>このように、ロシア語を学ぶことは、色んな意味で、皆さんの世界観を広げてくれることと思います。この授業ではロシア語の最初歩を学び、さらにこの言葉を学んでゆくための基礎をつくることを目標とします。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
なし

【教科書等】
<p>教科書：桑野隆『はじめてのロシア語』（白水社）</p> <p>参考書：辞書については授業時に説明します。</p>

電気通信大学 平成16年度シラバス

【授業内容とその進め方】

ロシア語文法を、文字の読み書きから学んでゆき、後期の「露語第二」と合わせて一年間で、初級文法を一通りマスターすることを目指します。

授業では発音練習、単語・基本表現の習得にも重点を置きます。そのため、ほぼ毎回の授業で小テストを行ないます。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法

- 1) 平常点(出席、授業時に行なう小テスト、授業での参加態度など) 50%
- 2) 学期末試験 50%

(b) 評価基準

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とします：

- 1) 毎回の授業に出席し、課題をきちんとこなしている
- 2) ロシア語の文字を自由に発音し、書くことができる
- 3) 学習した範囲の文法事項を理解している
- 4) 学習した範囲の単語の意味が分かる

【オフィスアワー：授業相談】

質問・相談は授業終了後に受けつけますので、遠慮なく来てください。
とくに時間が必要な場合は、事前にメールにてご一報ください。

【学生へのメッセージ】

絶対に途中であきらめず、無理してでも出席を続けるという心構えでいてください。これが外国語習得には一番大切なことです。

【その他】